

「防災のまち糀谷」推進プラン ～地域全体で防災対策～

I プラン作成の背景

平成24年4月に東京都が発表した首都直下地震等による新たな被害想定において、大田区への影響が大きいと想定されている元禄型関東地震の被害想定では、建物被害48,835棟、死者1,228人、負傷者11,705人、避難所生活者260,174人とされています。

糀谷地区では「防災のまち糀谷」をスローガンに掲げ、安全・安心なまちづくり、地域コミュニティの活性化、地域防災力の向上を図るために毎年、各自治会・町会が一斉防災訓練を実施する他、防災活動拠点会議、避難所運営協議会を行っています。課題も山積しています。

今こそ、地域全体で防災対策について考え、取り組みを進めていかなければならない状況にあります。

II プランの目的

- 地域の方たちの生命・財産を守るため、災害への備えとして「災害に強い地域づくり」、「災害に立ち向かう地域づくり」の取り組みを計画的に進め、「防災のまち糀谷」から大田区全体に向けて発信します。
- 大規模災害時には、行政も被災しており早期の「公助」の支援は難しい状況です。いざという時に地域で必要とされるのは「地域の一人ひとり」です。「自分たちのまちは自分たちで守る」、「各自が災害に対して備える」という意識を地域全体で育みます。
- これまで取り組んできた内容や地域を改めて確認し、現状を認識した上で地域に合った取り組みとします。糀谷地区にとって「今何を考えなければいけないのか」、「今後何をどのように取り組んでいくか」という点を整理し、各活動の目的を明確にします。

III プランの方針

- 1 人と人とのつながりを大切に地域全体で一丸となって進める。
- 2 各自治会・町会において、過度に負担にならないように留意する。
- 3 無理なく、考え込まず、楽しみながら取り組めるように配慮する。
- 4 防災対策の動向、情報を確認しながら、取り組みを進める。
- 5 大田区全体に向けて発信できるように取り組みを進める。

IV 現状と課題

【課題1】 糀谷地区避難所運営協議会連携会議の発展

東日本大震災を契機として「糀谷地区避難所運営協議会連携会議」を立ち上げ、主に避難所運営の現状や課題について意見交換、検討を行う場を設けていますが、これからの防災を考えていく上で、地域全体の防災対策について考えて取り組む必要があります。

【課題2】 糀谷地区一斉防災訓練のマンネリ化

地域全体で防災意識・防災行動力の向上を図るため、毎年同日同時刻に各自治会・町会が一斉防災訓練を実施しています。

一方、「訓練がマンネリ化している」、「見学している参加者が大半である」との声もあり、訓練内容・手法を見直す必要があります。

【課題3】 災害時における担い手不足

高齢化により災害時の担い手不足が進み、人と人とのつながりも希薄になりつつある現在、いかに多くの方に地域防災への関心を持ってもらうかが重要です。そのため、例えば小・中学生が早い段階で防災に関わる機会を増やすなど、地域全体で新たな担い手の確保が求められています。

【課題4】 防災活動拠点(避難所)間の連携

各防災活動拠点会議(避難所運営協議会)では課題などについて、意見交換や検討を進めていますが、活動を充実させていく必要があります。各自治会・町会を中心として地域全体が連携し、災害に立ち向かう防災活動拠点(避難所)の体制を整えることが必要不可欠です。

【課題5】 災害時要援護者(要配慮者)の対策

高齢化が進む中、昔ながらの近所づきあいや地域の助け合い意識が希薄になっており、災害時要援護者に対する取り組みを地域全体で進める必要があります。

これからの対策として…

V 今後の対策

【対策1】「糞谷地区防災会議」及び「防災担当者実務者会議」の設置

- (1) 防災対策全般に関する課題解決を図る組織「糞谷地区防災会議」の設置
- (2) 防災担当者レベルで防災対策を検討する組織「防災担当者実務者会議」の設置

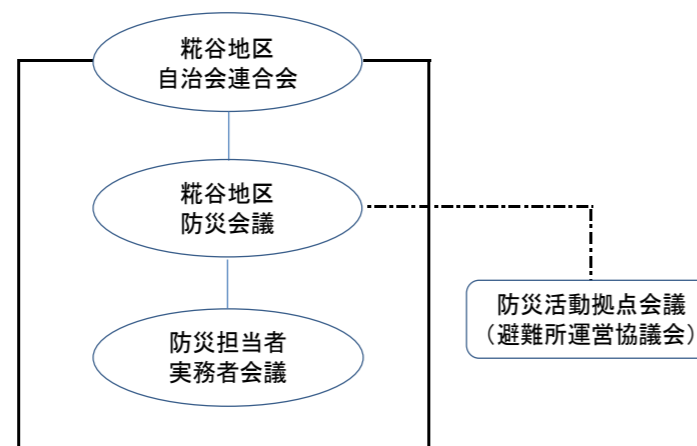


糞谷地区防災会議イメージ1



糞谷地区防災会議イメージ2

【組織図】



【対策3】災害時における担い手の確保

- (1) 地域団体(青少対・学校・PTAなど)と連携して「防災」に関する機会の創出
- (2) 地域の歴史や活動を若い世代に継承し、地域に対する関心度を向上
- (3) 地域に関わる全ての人たちが災害時における担い手であることの発信



防災バケツリレー(糞谷地区連合運動会)



糞谷中学校避難所体験宿泊教室

【対策4】防災活動拠点(避難所)の連携強化

- (1) 各防災活動拠点会議(避難所運営協議会)における活動のより一層の充実
- (2) 各防災活動拠点会議(避難所運営協議会)間の連携による課題解決



防災活動拠点会議(作業部会)



防災活動拠点訓練(本部運営訓練)

【対策2】糞谷地区一斉防災訓練のマンネリ化解消

- (1) 「時代にあった訓練手法」や「新しい資器材の活用」などを考えた訓練の見直し
- (2) 「継続は力なり」という意識のもと、訓練参加者の意識啓発を考えた訓練の実施
- (3) 「地域の一人ひとりがまちを守る担い手」と意識した訓練等の検討・実施



初期消火訓練



心肺蘇生訓練

【対策5】災害時要援護者(要配慮者)対策の充実

- (1) 災害時要援護者の支援・対策や先進的な事例の確認、活動の実施・充実化
- (2) 福祉施設と地域が連携した災害時要援護者の支援体制の整備



福祉避難所移送訓練



災害時要援護者組織会議(町会)